

平成 26 年度 上越市生徒指導部 活動報告

部長 齊藤 崇 稲田小学校

1 活動テーマ メディアにかかる諸問題への対応について

2 活動の概要

<講演会の開催>

○期 日 平成 26 年 11 月 12 日 (水)

○場 所 上越文化会館 大会議室

○内 容 ①「ネットにかかる青少年問題について」

上越警察署 生活安全課 大平 司 様

②「上越市における生徒指導上の現状と課題」

上越市教育委員会 学校教育課指導主事 田中 敦 様

(1) 「ネットにかかる青少年問題について」 (要約)

① 青少年のネット利用の現状

青少年のスマートフォン所有率は、小学生で 1 割、中学生で 5 割強、高校生で 8 割である。ネット利用時間は、1 日の平均時間が 107 分 (H25) となっている (72 分/H22)。

② ネットによる青少年の犯罪被害について

青少年が、ネット犯罪の被害者となる大きな理由は、青少年自身が、有害なサイトに安易にメールを返信してしまうことにある。

③ 青少年のネット利用の危険性

○ネットいじめ

悪口や無理やり撮影した写真の掲載、顔写真とともに「死ね、消えろ」など、ラインやツイッター、携帯電話などを使った悪質な中傷、仲間はずしがほとんどである。

○有害情報等に影響を受けたと思われる凶悪犯罪の発生

④ 青少年を守るために大人がすべきこと

○子どものネット利用の危険性を十分理解する。

○ペアレンタルコントロールの重要性を理解し、保護者は親として責任を自覚してネットを利用させる。ネットの「使い方」ではなく「使い道」を繰り返し教える。

○ネット利用に伴うリスクを教えるだけでなく、判断力・自制力・責任力を育てるように保護者と学校が互いに理解し合いながら、連携する。

(2) 「上越市における生徒指導上の現状と課題」 (要約)

① 子ども自身及び保護者からの訴えが、いじめ認知のきっかけになっている。今後も安心して教職員に相談できる体制を整備し、学校全体として組織的に対応してほしい。また、人権侵害につながる重大な事案が発生している。

② 不登校児童生徒数は、減少傾向にあるものの予断を許さない。

③ 学級経営について、授業が成立しない学級が増加している。授業改善や学習環境 (教室) の整備、教師の笑顔や児童生徒の適性・対処法への理解が課題である。

④ 「何かあったときの対応」を重視し、児童生徒、保護者、関係機関への初期対応を的確に行うよう心掛けてほしい。

3 成果と課題

(1) 小・中学校の生徒指導担当者が、メディアにかかる諸問題、背景、今後の課題を共同的に認識できたことは有意義であった。学校の実態を把握し、特に、親を含めた祖父母に対しても啓発の対象を広げていくことが重要であることを認識できた。

(2) 相談体制の整備、児童生徒の適正・対処法の理解に基づく学級づくりと授業改善、事後における的確な初期対応の重要性が、確認された。今後も重点的な課題である。